

## 事例 19 ICT を活用したシカ捕獲の負担軽減

(中部森林管理局 愛知森林管理事務所)



- 愛知県北設楽郡(きたしたらくん)設楽町(したらちょう) 段戸(だんど)国有林
- (左) くくりワナの設置 (右) 赤外線感応型捕獲センサー

愛知森林管理事務所では、シカのわな捕獲の効率化に向け、令和元年度から ICT を活用した「捕獲センサー」による見回り労力の軽減に取り組んでいます。

従来の捕獲センサーは、わなと糸で結ばれたセンサーのマグネットが外れることにより、わなの作動を検知し、携帯電話回線を経由してメールで通知されるものでしたが、①わなの設置範囲が携帯電話の利用可能エリアに限定されること、②わなが作動しても捕獲できていない「空はじき」でも通知されるため、実際に見回りに行かないと捕獲できているかわからないこと、の二点が課題でした。

このため、携帯電話の電波が届かない山間部でも運用できる LPWA<sup>\*</sup> を利用した遠距離通知システムを導入し、わなの設置範囲を拡大させるとともに、センサーについてもシカの動きを赤外線で感知するシステムに切り替え、「空はじき」の場合には通知されないよう改善できました。

引き続き、作業者の負担が軽減される扱いやすい機器に改良しながら効率的なシカ捕獲を進めるとともに、地域の関係者に対しても捕獲技術の普及に努めていくこととしています。